

スカウトちば

# SCOUT CHIBA

「スカウトちば」は、日本ボーイスカウト千葉県連盟の広報誌です。

Vol.101

2023年6月25日発行

## CONTENTS

18NSJ大集会に参加して  
100周年記念式典に列席して  
ワクワク自然体験あそびに参加して  
プラゴミマスターズ大作戦を実施して  
スカウトフォーラムに参加して  
防災キャラバンを実施して  
富士スカウト章を取得して  
令和4年度進級状況

ボーイスカウト日本連盟



YEARS OF SCOUTING  
IN JAPAN

1922 - 2022



## 第18回 日本スカウトジャンボリー

### 第18回日本スカウトジャンボリーで得られた経験

鎌ヶ谷第2回 ベンチャー隊 | 藤野 拓聖

僕は今回、「第18回日本スカウトジャンボリー」の大集会に、千葉県代表のベンチャースカウトとして参加させていただきました。

会場に着いて最初に嬉しかったことは、富士スカウトのみなさんがとても温かく迎えてくださったことです。僕たち代表スカウトに対して優しく、丁寧に指導してくださいました。

大集会では、都道府県のプラカード行進を行いました。会場には多くの人があり、その中を行進するのは非常に緊張しましたが、何度も練習を重ねたことで自信が付き、無事に終わることができました。

また、秋篠宮殿下とご接見する機会もいただき、自隊で行った夏の移動キャンプについてお話ししました。秋篠宮殿下は熱心に話を聞いて下さり、とても感激しました。

代表に決まった時は自分に代表が務まるのかと不安でいっぱいでしたが、大集会を通していろいろな人と出会うことができ、本当に貴重な経験をさせていただきました。ありがとうございました。

### ボーイスカウト日本連盟

## 創立100周年記念式典

### 日本連盟創立100周年記念式典に参加して

浦安第2回 ベンチャー隊 | 松岡 哲平

私は、この度ボーイ隊の千葉県代表として、日本連盟創立100周年記念式典に参加させていただきました。コロナ禍ということもあり、ボーイ隊で菊スカウト章を取得したスカウトは、千葉県で私しかおらず、このような貴重な機会をいただきました。

菊スカウト章を取るにあたっては、隊長をはじめ指導者のみなさまにご協力をいただき、大変感謝しております。菊スカウト章を取ったおかげで浦安市長からも表彰を受けることができました。

式典では天皇陛下や総理大臣にお目にかかることができ、貴重な体験でした。ベンチャー隊の千葉県代表のスカウトは直接天皇陛下とお話されており、うらやましく思いました。全国の様々な地域からスカウトが来ていて、それぞれネッカチーフの絵柄が違い、地域ごとの個性を感じて興味深かったです。

今年の夏、私は世界スカウトジャンボリーに参加します。世界スカウトジャンボリーでも地域ごとの個性を学び、世界中の人々とお互いを尊重し合えるような人物になりたいと思っています。



### 大会セレモニーを終えて

鎌ヶ谷第2回 ベンチャー隊 | 浦賀 圭吾

今回、第18回日本スカウトジャンボリーに千葉県代表として参加させて頂き、様々なことを思いました。

セレモニーでは、とても沢山のスカウトが同じ場所に集まり、それぞれの発表をしましたが、予想以上にクオリティの高いものばかりで驚かされました。

最後にアイドルが出てきた時には、私自身も興奮してノリノリになっていました。

私は、第17回スカウトジャンボリーに、当時中学一年生 ボーイスカウトとして参加しました。その時は夏の暑い中初めて1週間程度のキャンプをして、立ちかまどが壊れてしまうハプニングでご飯がまともに食べられなくなる、という苦い思い出があります。

第17回、第18回を通じてジャンボリーには独特の雰囲気があり、そこでしか得られない事がたくさんあると感じました。

大きな会場で他の団のスカウトと交流し、全く違う文化を知ることがとても大切だと思います。

### ボーイスカウト日本連盟

## 創立100周年記念式典に臨んで

鎌ヶ谷第1回 ベンチャー隊 | 皆川 真宏

千葉県の代表スカウトとして参列させていただけたこと、また決意の言葉を述べさせていただけたことを光栄に思います。

100周年記念ムービーの音声や関係者の方々のお話を舞台裏で聞きながら、先人たちが積み上げてきた歴史の重みをしみじみと感じていました。

壇上では大変緊張しましたが、同時にこの式典に関われたことへの感謝と誇らしい気持ちが沸き上がりました。

そして式典終了後、天皇皇后両陛下に御拝謁の機会をいただきましたことは、これ以上ない幸せでした。私のような年下の年代にも同じ目線に立って、丁寧なお言葉

遣いで語りかけてくださり、そのお人柄に尊敬の念を抱きました。

また、私の拙い話をにこやかに聞いてくださり、「良い仲間恵まれて良かったですね」とお声がけいただいた事で、自分が行ってきた活動と一緒に歩んできた仲間を一層誇りに思いました。

この経験を励みに、より良きスカウト、また良き社会人を目指し精進してまいります。





# ワクワク自然体験遊び

## ワクワク自然体験遊びに参加して

野田第1回 ビーバー隊、カブ隊 保護者 | 高島 優樹

コロナ禍でイベントが少ない頃、ワクワク自然体験遊びの募集を拝見し、子供がとても興味を示したので参加を決めました。

ロープワークのゲームでは、指導者の皆様が初めてでも分かりやすいよう丁寧に指導してくださっていて、それを聞きながら一生懸命に取り組んでいる姿がとても印象的でした。

自分で作った凧を使い、公園を駆け回り、誰が見ても分かるほどに全力で楽しんでいました。

この時の楽しそうな様子で「すぐ入団したい」と本人の強い希望があり入団を決めました。

家では出来ない体験を色々とさせていただき、毎回全力で楽しむ姿を見て、入団させて良かったと感じます。

その様子を間近で見ることが出来る、子供と一緒に楽しめる事も魅力の一つだと感じます。

又、指導者の方々や保護者の方々の、子供達へ接する姿を見て私自身もとても学びになっています。

これからもボーイスカウトの活動を通して、思いやりを持ち自分で考え行動できる、生き抜く力を身につけていって欲しいと思います。

## ボーイスカウトに入ったきっかけ

野田第1回 カブ隊 | 斎藤 梨里

わたしは「〇〇の体験」などというのが好きで、あるとよく参加していました。今回も楽しそうだなと思い参加しました。

公園に来た時、人がたくさんいてさめちゃいました。そして色々な遊びをしました。ペットボトルを使ったゲームは初めてで、こんな物で遊べるなんて、とてもびっくりしました。チームを作って対戦しました。チームワークが大切でした。初めて会った人たちでさめちゃいましたけど、うまくできて楽しかったです。

あとはたこを作ったこあげをしました。むずかしかったけど、ていねいに教えてくれたので分かりやすかったです。たこに絵をかくのが楽しかったし、自分で作ったオリジナルのたこをあげられておもしろかったです。大きいたこからおみくじとおかしも落ちてきました。

全部身近にある物でおもしろいゲームが出来たんだなと思いました。もっとこのような活動をやっぱりしてみたいと思って、ボーイスカウトに入りました。



## たくさんのことを教えてもらった自然体験あそび

四街道第1回 カブ隊 | 河野 択真

自然体験あそびで楽しかったことは、年上のお兄さんたちと縄結びの練習などをしながら一緒にすごしたこと。年上の子たちは、縄結びやボーイスカウトのルールなどたくさんのことを知っていて、僕がもやい結びのやり方が理解できなくてうまく結べなくても、他の組が終わって遊びを始めていても、僕ができるようになるまで待っていてくれて、最後までよくわかるようにていねいに教えてくれました。うれしかったです。僕は、自然体験あそびの時間がわくわくでたまりませんでした。その後、僕はボーイスカウトに入りました。自然体験あそびの時のような楽しい時間がたくさんあると思ったからです。僕はこれからたくさんのことを覚え、自分がしてもらったように、新しく入ってきた子や自然体験あそびに来た子に、縄結びやボーイスカウトのルール、手旗など、いろいろなことを教えてあげられるようになりたいです。

## 「自然体験あそび」の概要

四街道第1回 団委員長 | 南 正晃

四街道第1回の令和4年度第1回「ワクワク自然体験あそび」を6月12日(日)に、四街道市教育委員会の後援を得て、四街道市総合運動公園を会場として開催しました。

4月から団委員・各隊指導者一体となり、団のプロジェクトとして準備にあたり、市内の小学校(1年から4年)と幼稚園年長に約5000枚のチラシを配布しました。

「もうすぐ夏だ!外で元気に遊ぼう」をテーマに、ビーバー年代19名カブ年代12名計31名の一般参加者を得て、ビーバー部門は「箱積み競争」「新聞紙かつらむき」、カブ部門は「暗号ハイキング」(追跡サインとロープ結び)の各プログラムにスカウトと一緒に挑戦しました。ゲーム終了後は、ボーイ隊が作成している「立ちかまど」「A型テント」を見学し、ローバー隊が準備した樹木間を結んだロープ渡りを楽しんで貰いました。

梅雨の時期でしたが、良い天気のもと参加者・スカウト・指導者皆で楽しんだ集会となりました。

## 自然な自分でいられる場

四街道第1回 保護者 | 河野 宅哉

私が子どもを自然体験あそびに参加させてまず思ったことは、子どもの素の部分がよく出ているなあということです。自分を作ったり、飾ったりすることなく、体験の中で自然に笑ったり、驚いたりする姿がとても印象的でした。入団を決めた理由は、本人が強く望んだことと、ボーイスカウトが、子どもが自然な自分で居られる場所であると思ったからです。競争や比較の多い現代で、本人がのびのびと行えるボーイスカウトの活動は大変貴重に感じます。いろいろな活動や学習を通して子どもにきっかけを与えてくれ、そして出た芽がどんどん伸びていく。そこで周囲の大人が芽の長さや大きさを測ることはなく、その芽本来の成長を見守り促してくれる。今後もそのような環境の中で、子どもにはのびのびと育ててほしいと思います。



# プラゴミバスターズ

市原第6団 カブ隊 | 岡本 翔平

市原第6団 カブ隊 副長 | 鏑田 さやか

9月11日(日)市原6団カブ隊は辰巳中央公園を出発し、1組と2組で大通りの両側に分かれて、歩道のごみ拾いを実施しました。今年度のスカウトの日のテーマは「プラごみバスターズ大作戦」ということで、事前にリーダーや保護者をお願いして、登録したごみ拾いアプリ「ピリカ」を使用し、スカウトが拾ったプラごみを撮影、投稿しながら回収していきました。

プラスチックごみは簡単には分解されず、長く地球環境に影響を与えることを、昨年森の中での隊集会で学んでいたスカウトたちは、歩道に落ちている空き缶や紙ごみなど様々なごみの中から「これはプラスチックかな?」などと声を掛け合ったりして、自分たちで考えながら活動することができました。「ピリカ」を使用することで、スカウトたちは今まで以上に分別を意識してごみ拾いを実施することができました。

団としてボトルキャップアップのプログラムにも取り組み、ボトルキャップを10,820個回収しました。スカウトに配布したホイールバッチジは、活動の記念になりました。

市原第6団 カブ隊 保護者 | 倉重 和美

プラごみバスターズ大作戦に参加した息子は、活動中は「見つけたよ!」「こっちにもあったよ!」と仲間の皆と楽しくゲームで競うようにゴミを拾って楽しんでいるようでした。が、ただ活動が楽しかったということだけでなく、この活動がきっかけとなり、「なぜゴミのポイ捨てがいけないのか?」「捨てられたゴミはどうなるのか?」など考えて行動するようになりました。そして、小学校周辺のゴミ拾いを始めました。プラごみバスターズ大作戦をきっかけに、これまでより広い視野で考え、チャレンジする姿を見て、息子の成長を感じる事ができました。

昨年9月に団行事のプラごみバスターズに参加しました。最初はいつものゴミ拾いと変わらないと思っていましたが、プラスチックのゴミをみつけてリーダーに伝えると、写真をとって、ピリカというアプリに登録してくれました。またこんなゴミが落ちていたみたいだよと他の人が拾ったゴミの写真も見せてくれるので、いつもとは違ったかたちで、スカウトの仲間と楽しくゴミ拾い出来ました。どっちが多くゴミを拾えるかを組で競争して、負けてしまったけど、自分たちが協力してゴミ拾いをする、街がきれいになり、人に喜んでもらい、うれしかったです。また楽しくゴミ拾いできればいいなと思いました。

ただ、ゴミ拾いをした後にまたポイ捨てをする人がいたので、せっかくきれいにした街がゴミで汚されないように、ゴミを捨てないように多くの人に呼びかけていきたいと思います。

団でペットボトルのキャップもたくさんあつめました。

後日ペットボトルキャップで作ったバッチジをもらったので、プラごみバスターズに参加した記念に取っておきたいと思います。



## 「プラごみバスターズ大作戦」について

富津第1団 カブ隊 副長 | 川口 恵理子

富津第1団では、スカウトの日に行っている環境保全活動を地域の方にも知って頂くこと、令和4年9月25日にワクワク自然体験とコラボしてプラごみバスターズ大作戦を実施しました。

参加者(30人)は、野営場から近くの海岸まで歩きながら、タバコなどのはぐれごみを次々と捕獲。海岸では、打ち上げられたペットボトルや外国生まれのはぐれプラごみたちを次々と捕獲しました。

そのほか、持ち寄ったボトルキャップの色分けをしてペットボトルキャップアップサイクルミッションに挑戦したり、ペットボトルで風鈴やけん玉を工作したりと、参加者全員で楽しい時間を過ごしました。

事前に開催した組集会上では、マイクロプラスチックによる海洋汚染問題について取り組みスカウトとともに環境汚染について考えることができました。

これからも、スカウトとともに意識を高く持って取り組んでいきたいと思います。

## 「プラごみバスターズ大作戦」をやって

富津第1団 カブ隊 1組次長 | 鷺山 碧波

ごみの誕生と終わりを集会で話し合いました。僕たちが毎日食べる物も、捨ててしまえばごみの誕生になり、残念だと思いました。

ペットボトルが石油から出来ていると教わりガソリンとペットボトルが元は同じものだと言う事が不思議でした。プラごみは分解して土に戻るまで何百年もかかり、その間に自然の力で小さくなって地球を汚していると聞いて地球に優しくないと思いました。小さくなったプラごみを魚が食べて、魚を自分も食べてしまっている事に、僕は正しい分別で捨てるのが大事だと感じました。

いつもの海へ行く道にもプラごみがたくさん落ちていて、海には外国語が書かれたゴミも有ったので、海から流れてきたのだと思い、ここに流れてくる間にきっと魚が食べてしまうのだと、教わった話は本当だと思いました。

最後にペットボトルで風鈴とけん玉を作りました。捨てる前に他の使い道を見つけたら遊べる物に変えることが出来て楽しかったです。



- 文化継承について
- 差別、偏見について

# 令和4年度スカウトフォーラム

令和4年度スカウトフォーラムは、ベンチャースカウトがそれまで多くの仲間とスカウト活動を通して身につけた知識や経験をもとに、「新しい100年に向けてスカウトは何をすべきか」をテーマに隊や地区フォーラムを通して、11月に県フォーラムを、そして12月には第24回全国スカウトフォーラムを開催し、2月には県アフターフォーラムを実施してスカウトたちが話し合い、より広い視野を持った活動の展開につなげました。

## 100年先の明るい未来に向けて

千葉第18回 ベンチャー隊 | 藤川 亜由

私は2年前、初めて県スカウトフォーラムに参加した時に、議論することや他の地域のスカウトとかかわることの楽しさを知って今回のフォーラムに参加しました。

フォーラムには「意見を否定しない」というルールがあるため、言葉をしっかり選んで、でもストレートに自分の意見を述べるができる場でもある、という点にも惹かれていました。

そして、千葉県連盟代表として第24回全国スカウトフォーラムに参加させていただき「新しい100年に向けてスカウトは何をすべきか」のテーマのもと、3日間、全国のスカウトと議論やその他様々な交流をしてきました。

3日目に行われた全体会での議長団に入り、議長を務め、全体討議を進め、まとめる中で、私は今回のフォーラムで、「地元のことを強く思う心」が各都道府県代表スカウト全員に共通して持っている思いだと感じました。

誰も、100年間で何が起るのかわかりません。しかし、そんな強い思いを持ったスカウトがいる限り、何年先であろうと未来は暗いものばかりではないと思います。暗いものにしないように、まず私たちスカウトが行動を起こすことが重要だと思います。

## フォーラムの運営を支援して

我孫子第1回 ローバー隊 | 東儀 隆範

今回県ローバース会議の一員として、フォーラムを運営するにあたって、自分がスカウトで参加した時のことを思い出し、当時のローバーの先輩方に丁寧に対応していただいた事を強く覚えていて私もそのような運営が出来るように心がけました。

今回のスカウトフォーラムのテーマは、かなり抽象的なものだったので、スカウトに何をどう考えてもらうのか、時間をかけ慎重に決めていきました。その甲斐あって県フォーラム当日は、有意義な討議を行えたと感じています。

アフターフォーラムでは、事前に議長の藤川スカウトを中心に打ち合わせを行い、当日の流れを綿密に詰めることができたので、自分が参加した時には事前の打ち合わせを十分に行えず悔しい思いがあったので大変嬉しい思いでした。

今回のフォーラムは、スカウト全員が積極的に参加してくれたおかげで、有意義なものになったと感じており、この場をお借りして感謝申し上げます。

また藤川スカウトにおいては、全国でも議長として活躍されたことを、前回、全国議長をさせていただいた者として誇りに思います。

# 防災キャラバン

令和4年11月5日にイオンモール八千代緑が丘店で「防災キャラバン」開催しました。

当日来場された方は96人(うち児童41人、保護者45人)でした。会場の設営などは成人指導者中心に41名、体験のご案内はローバースカウト中心に12名が実施しました。

習志野第1回 ローバー隊 | 二瓶 大樹

コロナ禍で対面でのボーイスカウト活動を自粛していた中で、久しぶりの合同活動であった今回の防災キャラバンは非常に有意義な活動であったと感じております。

活動が始まった直後の午前の私はコロナ禍で自粛していたためか半年はできていたはずの設営作業も見様見真似であり、隊長や他スカウトの指示で動くようなことが多く、ローバースカウトとして主体的にどのように行動してゆけばよいかと考えながらも、上手に行動できずに設営に携わっていました。

しかし、いざ参加して下さった方との交流が始まると、自然と受け持ったブース役割を理解し、事前に用意されたもの他に自ら積極的に地域の方と関わられるように工夫したことで、事務的に「ブースを回ってもらう」だけでなく、開催者としても私も、参加してくれた子たちが楽しめた会となったと思います。

防災キャラバンを撤営するころにはあっという間だな、また来年やらないかなと思うようになった会でした。







## 憧れの存在になる

香取第1団 ベンチャー隊 | 石田 大輝

皆さんは夢を持っていますか？私はたくさん持っています。小さなものから大きなものまで数えきれません。そして昨年、そのうちの一つを叶えることができました。この夢を叶えるまでに、12年かかりました。えんじ色の記章を見るとたくさんの思い出がよみがえってきます。ボーイスカウトを始めた日、初めての長期キャンプ、外国スカウトとの交流、富士スカウト代表表敬と、本当にたくさんの経験をさせていただきました。今までスカウト活動を続けてこられたのはひとえに、たくさんの人の支えがあったからだと考えます。富士スカウトになった今、憧れる側から、憧れられる側へと変わりました。少しでも理想の富士スカウトになれるよう、ちかいとおきての実践に努めてまいります。最後になりましたが、今まで富士スカウト章挑戦に際しご尽力いただいた方に感謝をしたいと思います。本当にありがとうございました。

## 活動を見守って

香取第1団 保護者 | 石田 裕子

幼い頃から憧れていた富士スカウト章を左胸に今も活動にいそむ息子を誇らしく思います。

私の兄が取得した富士スカウト章をみて「これはなに？」と聞いてきたことがはじまりでした。息子の曾祖父の代からスカウト活動に縁があったこと、香取第1団に知り合いがいたこともあり、体験集会に連れて行きました。「入りたい？」と聞かまえに「また行きたい！」と言ったあの笑顔は忘れられません。

上進するごとにさまざまな技術を身につけ、日本スカウトジャンボリーや世界スカウトジャンボリーへの参加により人の輪が広がったことで、人間性の成長を感じる場面も多々ありました。

富士スカウト章を取得できたことは、隊長はじめ指導者の皆様、香取第1団の仲間、全国の仲間、活動先で協力してくださった方々の支えがあったことです。自分が活動を楽しむことでまわりや後の世代にもそれが広がっていく、そんなふう活動して行ってほしいです。

## ベンチャースカウトを指導して

香取第1団 ベンチャー隊長 | 久保木 寿光

当団より初めて富士スカウト章取得者を輩出できたことは、これまでスカウトを指導してきた方々や日頃よりスカウト活動に対してご協力頂いている関係者にとって大きな成果だと思います。もちろん取得したスカウトの積み重ねてきた努力もあると思います。私自身ベンチャー隊として経験も浅く、未熟な指導者ではありますが、スカウトの心の炎が私の心にも移り、大きな力となったことは間違いありません。

スカウト一人では、挫折しそうになりますが、そこに仲間のスカウトや大人のサポートが少し入るだけで、大きく羽ばたける環境が出来上がると思います。今後、富士スカウト章を目指すスカウトには、取得する道のりは長いですが、努力すれば必ず取得できるスカウト章であると思っただきたいです。なぜなら、あなたの周りにもスカウト精神を持った人々がたくさんいますので。

最後に、これまでご協力いただいた様々な関係者の方々に感謝を申し上げたいと思います。

弥栄

## 令和4年度進級状況

### 富士スカウト章



1. 石田 大輝 香取第1団

### 菊スカウト章



- |                 |                   |
|-----------------|-------------------|
| 1. 藤野 拓聖 鎌ヶ谷第2団 | 12. 船橋 瑛海 松戸第1団   |
| 2. 浦賀 圭吾 鎌ヶ谷第2団 | 13. 西山 大洋 千葉第6団   |
| 3. 松岡 哲平 浦安第2団  | 14. 須藤 文人 柏第10団   |
| 4. 浅野 陽 浦安第2団   | 15. 長谷川 大翔 八千代第4団 |
| 5. 高杉 光 浦安第2団   | 16. 梅澤 勇至 八千代第4団  |
| 6. 白水 響己 浦安第2団  | 17. 遠山 亮 八千代第4団   |
| 7. 竹村 向陽 千葉第6団  | 18. 星 達也 鎌ヶ谷第1団   |
| 8. 三井 まひる 千葉第6団 | 19. 川村 碧生 鎌ヶ谷第1団  |
| 9. 齊藤 孝志 千葉第6団  | 20. 新井 透 市川第8団    |
| 10. 鈴木 陵太 千葉第6団 | 21. 秋本 裕輝 市川第8団   |
| 11. 七星 葵 千葉第6団  | 22. 渋谷 優真 流山第3団   |

### 隼スカウト章



1. 皆川 真宏 鎌ヶ谷第1団  
 2. 山田 佳樹 千葉第6団  
 3. 佐藤 志大 柏第10団  
 4. 藤川 亜由 千葉第18団

### 編集後記

スカウトちば101号をお届け致します。

長かったコロナ禍もようやく落ち着きを見せ、まだまだ油断は出来ないものの野外での活動も本格的な再開に向けて動き始めた団も多いことと思います。千葉県連盟の活動においても自粛の為に中止や延期で失われた機会を取り戻すべく積極的な活動を展開して参ります。

また、令和5年度は県連盟にとって大きな改革である地区再編による新たな地区のスタートの年となります。スカウトちば101号の編集は年度を跨いでの作業となりましたため、混乱を避けるため各記事の記名に地区名の表記をせず団名のみとしております。あしからずご了承ください。

### 【発行者】

日本ボーイスカウト千葉県連盟

〒260-0001 千葉市中央区都町2-1-12 千葉県都町合同庁舎4階

TEL.043-235-8070

運動拡充委員会 編集責任 嶋田 敏裕

詳細は、日本ボーイスカウト千葉県連盟ホームページをご覧ください <http://www.scout-chiba.jp>



お問合せは